

- ③ 当年度中生存脱退者については、前年度末の報酬に賃金上昇率を適用したものの 1/2 分：

$$\text{hoshu}(k-1, x-1, t-1) \times (1+h(k))/2 \times \text{dattai}(x, t) \times \text{htoc}(k)$$

当年度末における満 x 歳、被保険者期間 t 年の被保険者の報酬累計は、「(A)+①+②」、当年度末における満 x 歳、被保険者期間 t 年の受給待期者の報酬累計は、「(B)+③」により算出される。

これらを被保険者数、受給待期者数でそれぞれ除すと 1 人当たり報酬累計が得られ、次年度のシミュレーションに用いる $\text{ruikeih}(x, t)$ あるいは $\text{ruikeit}(x, t)$ となる。

k ：年度、 x ：年齢

t ：被保険者期間が t 年（ここでは「 t 年以上($t+1$)年未満」を意味するものとする。）

$\text{hoshu}(k, x, t)$ ： k 年度末における満 x 歳、被保険者期間 t 年の被保険者の 1 人当たり報酬

$\text{ruikeih}(x, t)$ ：年度末における満 x 歳、被保険者期間 t 年の被保険者の 1 人当たり報酬累計

$\text{ruikeit}(x, t)$ ：年度末における満 x 歳、被保険者期間 t 年の受給待期者の 1 人当たり報酬累計

$\text{nhoshu}(x)$ ：年度末に満 x 歳である加入者（新規加入者及び再加入者）の 1 人当たり報酬（平成 18 年度末基準）

$\text{kanyu}(x, t)$ ：当年度中の加入者（新規加入者及び再加入者）であって、当年度末に満 x 歳、被保険者期間 t 年である者の人数

$\text{dattai}(x, t)$ ：厚生年金からの生存脱退者であって、当年度末に満 x 歳、被保険者期間 t 年である者の人数

$\text{zanzonh}(x, t)$ ：当年度末における満 x 歳、被保険者期間 t 年の被保険者であって、前年度末から引き続き被保険者である者（残存者）の人数

$\text{zanzont}(x, t)$ ：当年度末における満 x 歳、被保険者期間 t 年の受給待期者であって、前年度末から引き続き受給待期者である者の人数

$\text{hiho}(x, t)$ ：当年度末における満 x 歳、被保険者期間 t 年の被保険者数（ $= \text{kanyu}(x, t) + \text{zanzonh}(x, t)$ ）

$h(k)$ ： k 年度の賃金上昇率

$\text{slide}(k)$ ： k 年度の年金改定率（スライド調整前）